

(事後評価)

スツツ  
寿都地区  
直轄特定漁港漁場整備事業

完了後の評価(事後評価)結果準備書説明資料

令和4年度  
北海道開発局

## 目 次

1. 地区の概要	.....	3
2. 事業概要	.....	5
(1)事業の目的	.....	5
3. 効果等の把握	.....	10
(1)費用対効果分析の算定基礎となった要因変化	.....	10
(2)事業効果の発現状況	.....	13
(3)事業により整備された施設の管理状況	.....	19
(4)事業実施による環境の変化	.....	19
(5)社会経済情勢の変化	.....	19
(6)今後の課題	.....	19
(7)事業の投資効果	.....	20
4. 総合評価	.....	22

# 1.地区の概要

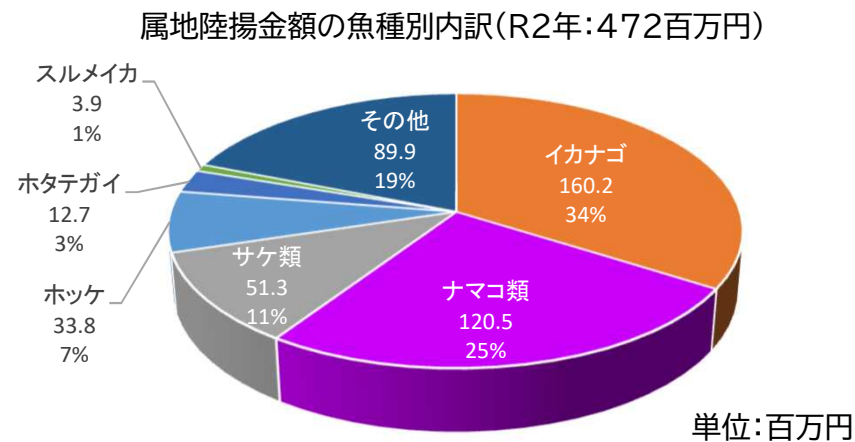
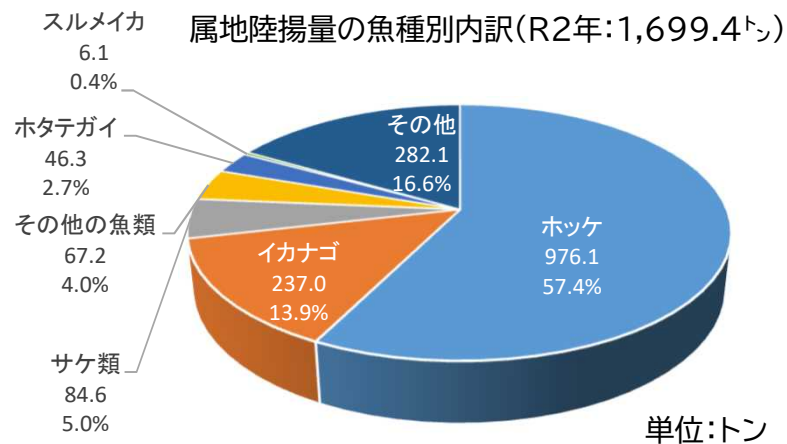
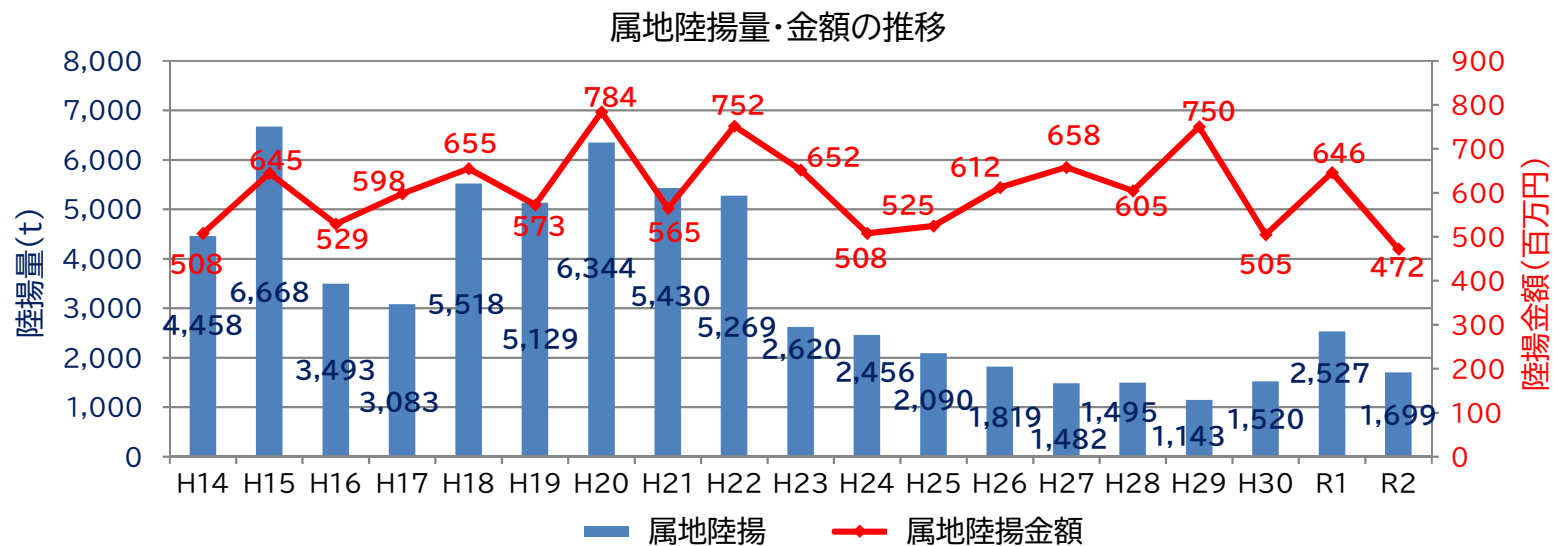
寿都漁港は、北海道日本海中部の寿都湾に位置する第3種漁港(昭和26年6月29日指定)です。

本漁港は、寿都湾周辺で操業するホッケやイカナゴ等の沿岸漁業、ホタテ・カキ養殖漁業、イカ釣外来漁船の陸揚げ拠点漁港であり、寿都島牧圏域において唯一の産地市場を有し、近隣漁港から本港に集約された漁獲物を含め道内各地へ出荷され、流通拠点漁港として利用されています。また、寿都町地域防災計画において緊急物資輸送等の防災拠点として位置付けられており、重要な役割を担っています。



# 漁港の港勢等

陸揚量は、平成23年以降、太宗魚種であるホッケ資源の減少やスルメイカの不漁などの影響により落ち込んでいますが、近年はイカナゴ漁獲の安定や、ホタテおよびカキ養殖漁業の増大などにより、横ばい傾向で推移しています。



# 2.事業概要

## (1)事業の目的

寿都漁港が抱える諸問題を解決するため、下記の対策について漁港施設を整備しました。

1)衛生管理対策(屋根付き岸壁整備)

2)港内静穏度対策(護岸整備、港口切替)

3)魚価安定化対策(蓄養水面整備)

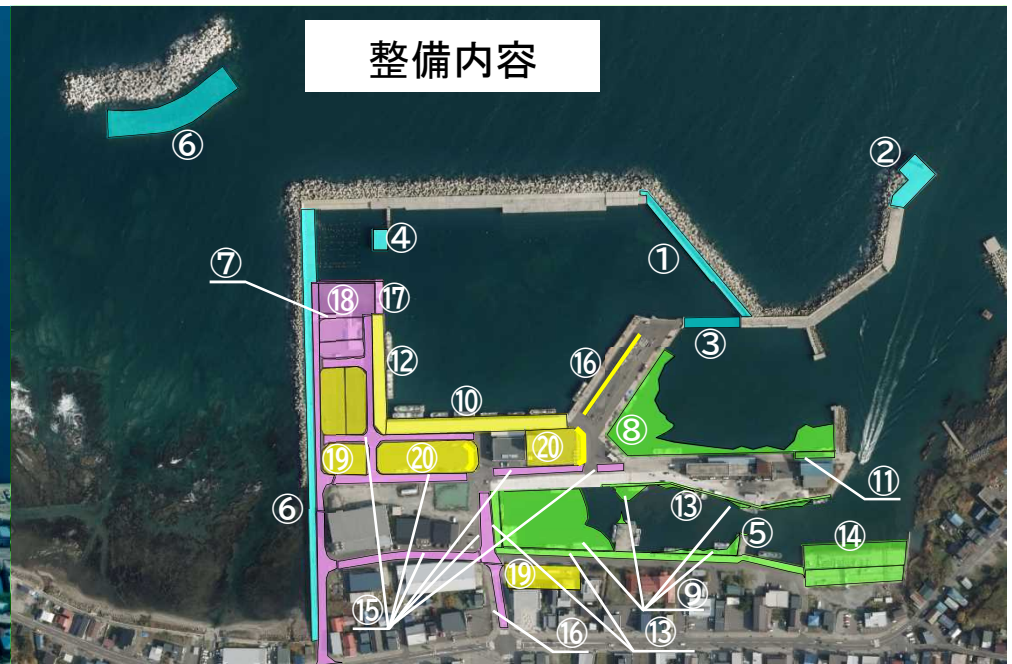
4)漁港の機能向上対策(岸壁・船揚場整備)

- 衛生管理対策
  - ⑩-3.5m岸壁(改良)
  - ⑫-3.0m岸壁(改良)
  - ⑯道路(改良)
  - ⑲用地
  - ⑳用地(改良)

- 港内静穏度対策
  - ①北外防波堤
  - ②北防波堤
  - ③北防波堤(撤去)
  - ④突堤
  - ⑥護岸

- 漁港の機能向上対策
  - ⑤突堤(撤去)
  - ⑧-3.5m泊地(補修)
  - ⑨-2.5m泊地(補修)
  - ⑪-3.5m岸壁(補修)
  - ⑬-2.5m物揚場(改良)
  - ⑭船揚場(改良)

- 魚価安定化対策
  - ⑦用地護岸
  - ⑮道路
  - ⑰道路(改良)
  - ⑱蓄養施設護岸
  - ⑲蓄養水面



## 1) 衛生管理対策

陸揚げ作業は野天で行われており、直射日光や雨、異物混入等による水産物の品質低下が懸念されていました。このため、屋根付き岸壁整備により、衛生管理体制の構築による水産物の安全・安心の確保及び効率的な作業環境の確保を図ることとしました。



## 2) 港内静穏度対策

港内静穏度が十分に確保されておらず、荒天時には漁船の損傷被害や多層係留が生じており、非効率かつ危険な作業を強いられていました。また、寿都湾で操業する周辺漁港の漁船は、寿都漁港での陸揚後、荒天時には危険を冒して帰港しなければならない状況にありました。このため、護岸の整備や港口の切替え等により、港内静穏度が確保し、漁船の被害防止や避難船の受入れなどを可能とし、漁業活動の安全性向上を図ることとしました。



荒天時の港内擾乱状況



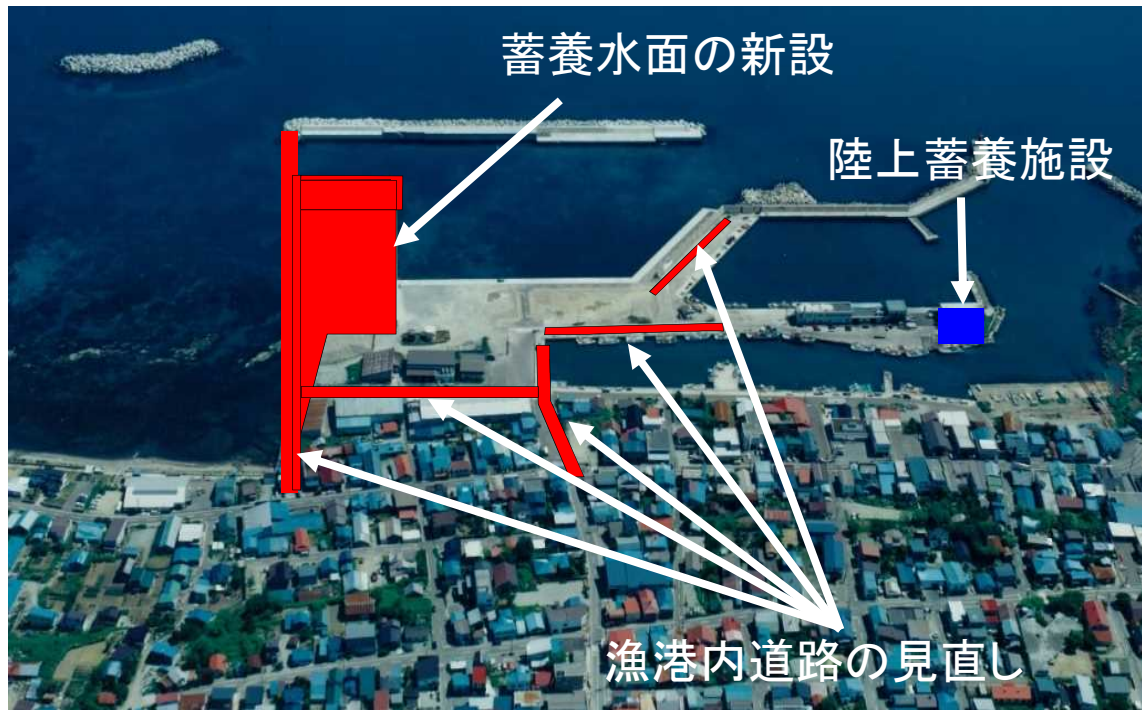
港口付近（外港区）の港内状況



静穏度不足による漁船の多層係留状況

### 3) 魚価安定化対策

ウニ・アワビ等の出荷にあたり、従来は陸上蓄養施設で出荷調整を行っており、水質管理などの作業時間や維持管理の経費を要していました。又、漁港内が狭隘なため、運搬作業効率の低下を招いていました。蓄養水面の新設により、水産物の出荷調整が可能となると共に、新たに用地・道路等を整備し、水産物の安定供給を図ることとしました。





#### 4) 漁港の機能向上対策

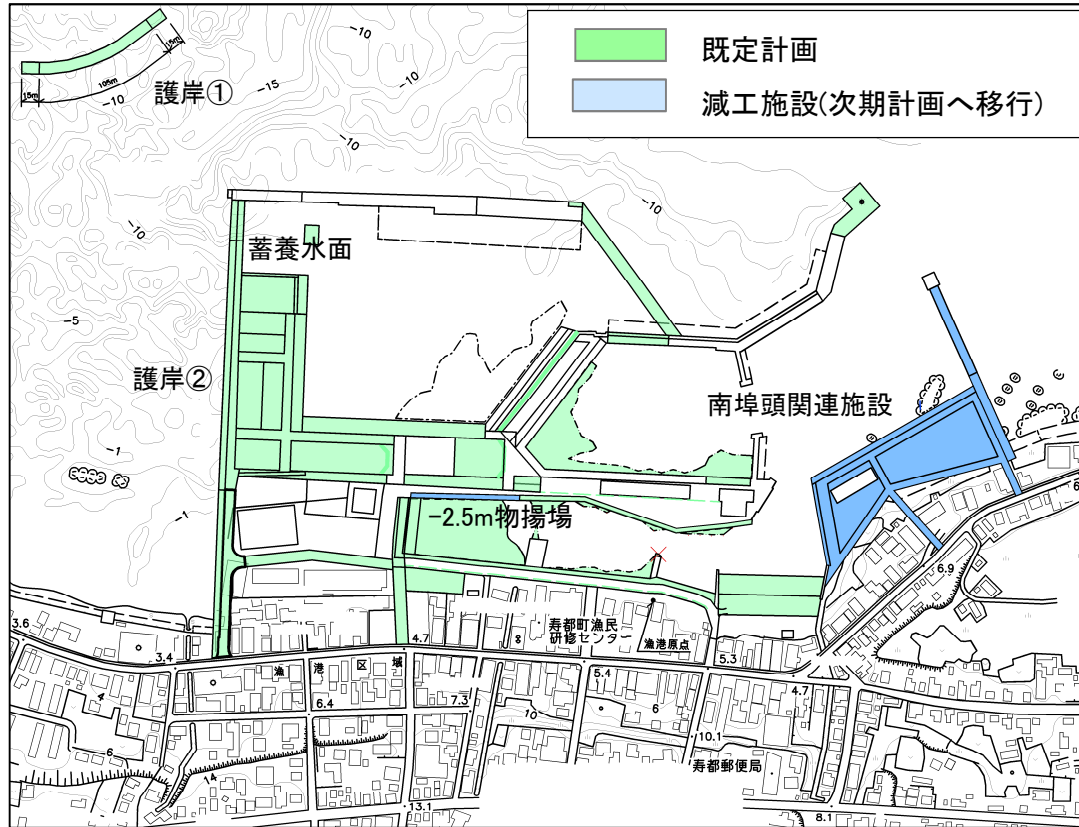
厳寒期の陸揚げ作業や急勾配の岸壁での漁業活動が行われており、身体的な苦痛はもちろんのこと、転倒やけがなどの危険性を伴う作業を強いられていました。屋根付き岸壁整備や岸壁改良による急勾配の是正により、安全で効率的な陸揚げ作業環境の確保を図ることとしました。



# 3.効果等の把握

## (1)費用対効果分析の算定基礎となった要因変化

### 【事業計画の変更の内容】



### 【主な増加要因】(約13.0億円増)

- ・護岸①、護岸② 約11.0億円増
- ・蓄養水面 約2.0億円増

### 【主な減少要因】(約10.6億円減)

- ・南埠頭関連施設 約9.6億円減  
(次期計画へ移行)
- ・-2.5m物揚場(改良)約1.0億円減  
(次期計画へ移行)

### 【計画事業費・事業期間の変更】

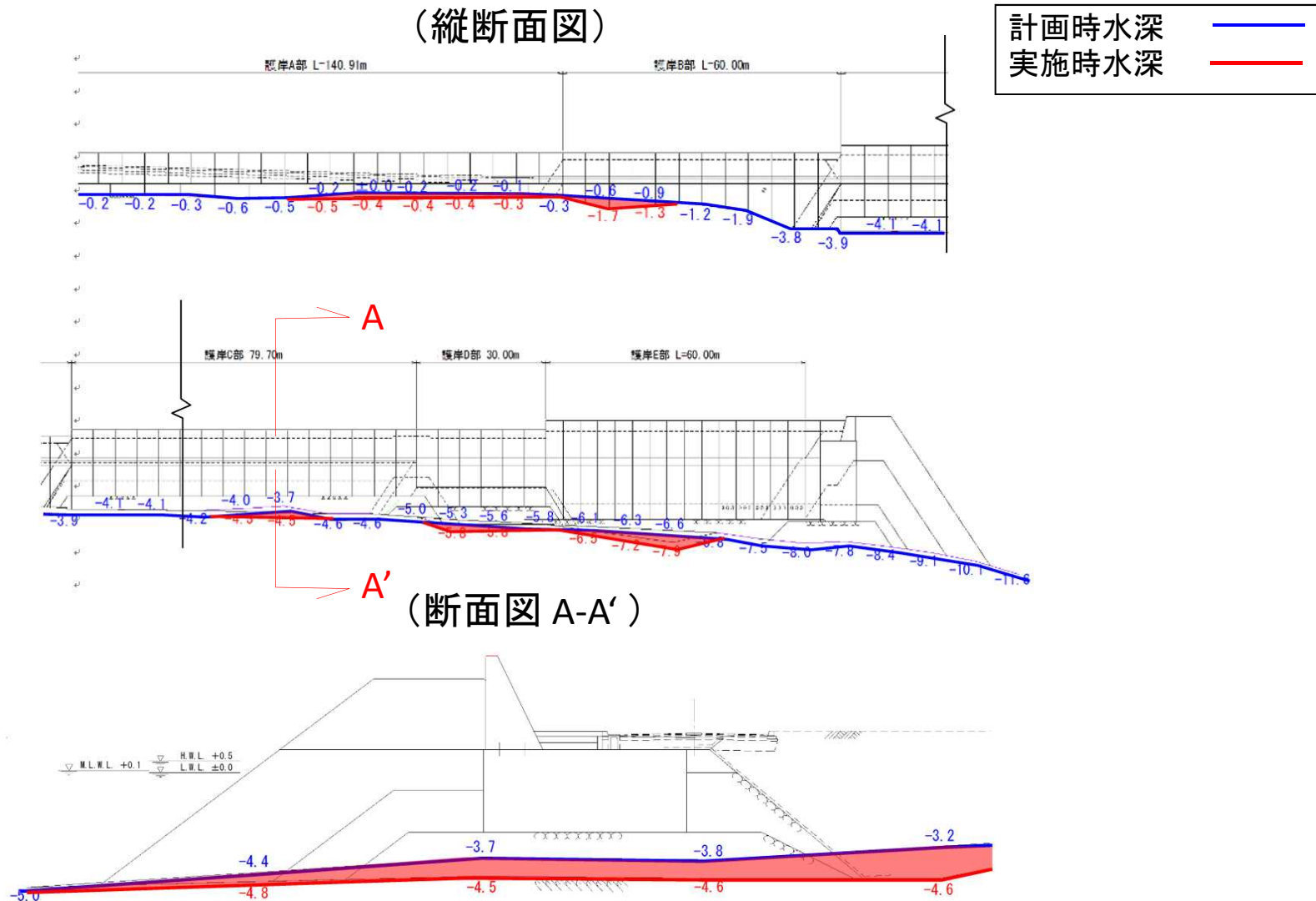
	前回評価(H23期中評価)	今回評価(R4完了後の評価)	変更内容
事業費	80.9億円	83.3億円	2.4億円増
事業期間	平成14年度～平成28年度	平成14年度～平成28年度	変更なし

## ■ 主な事業費変更理由

1) 現地精査による数量の増加(5.0億円増)

護岸②について、現地の水深条件が計画立案時(H14)から設計時(H19)までの経年変化により、水深が深くなり、基礎捨石やブロックの施工数量の増加により事業費が増加した。

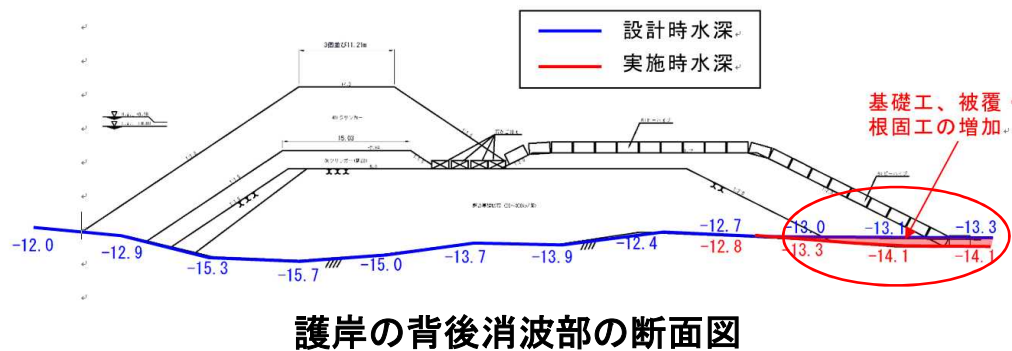
(縦断面図)



## ■ 主な事業費変更理由

### 2) 護岸①の施工条件の変化(6.0億円増)

藻場機能を付加した護岸の施工に当たっては、当初想定より現地水深が深く、基礎工、被覆工等の施工数量が増加しました。また、ブロック製作は漁獲物の品質低下の懸念により、当初想定していた漁港内作業ヤードが使用できなくなり、漁港外に作業ヤードを確保する必要が生じたことで、資材運搬費用やヤード用地の借上げ費用などに関わる費用が増加しました。これらの要因によって、護岸の整備費用が増額となっています。



## (2) 事業効果の発現状況

### 1) 定量的な効果

#### ① 避難・救助・災害対策効果事例

護岸の整備や港口の切替え等により、安全避難水域が確保されたことで、寿都湾周辺海域で操業する漁船が本漁港へ避難できることとなり、海難事故を回避することが可能となりました。



## ②主な水産物生産コストの削減効果事例

外郭施設の整備によって港内静穏度が確保されたことで、漁船の見回り作業時間の低減や漁船の損傷被害が大幅に軽減されるなど、漁業活動の安全性向上が図られました。

### 整備前



### 整備後



荒天時の見回り回数  
・作業時間

整備前  
回数：4回  
時間：1.25時間/回



整備後  
回数：1回  
時間：0.25時間/回

3回の見回り短縮  
1時間の作業短縮

### 漁業活動の作業時間短縮

#### ■漁業者の声

- ・港内が静穏になり安全に漁船を係留することができるようになりました。
- ・時化の時に行っていた見回り作業の負担が軽減しました。

### ③漁獲物付加価値化の効果事例(衛生管理施設)

屋根付き岸壁が整備され、水産物の陸揚げから出荷作業において品質保持のための作業環境が確保されるとともに、異物混入防止や直射日光遮蔽により、魚価の安定化が図られました。

#### 整備前



野天での陸揚げ作業状況



鳥類の蟻集状況

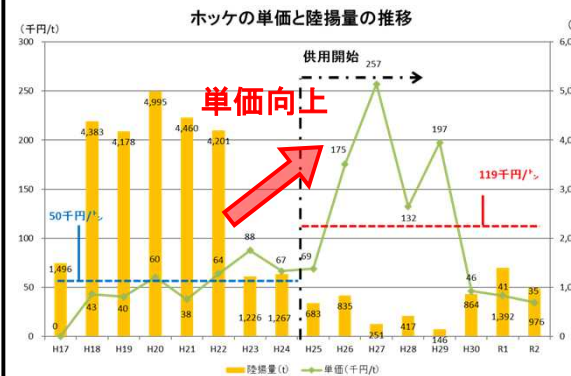
野天での荷捌き状況

#### 整備後



屋根施設下での陸揚状況

荷捌き所内の保管状況



ホッケの単価  
 整備前: 50千円/トン  
 ↓  
 整備後: 119千円/トン  
 約2.3倍の単価向上

#### 品質低下回避による単価向上

#### ■漁業者の声

- ・屋根下で作業ができるようになり、夏場の水産物の温度上昇を防ぐなど、品質向上につながっています。
- ・屋根の下にはカモメやカラスが入り込まないため、鳥糞被害や魚をつつくなどの被害が軽減しました。衛生的にも良くなりました。

#### ④漁獲物付加価値化の効果事例(蓄養水面)

新たなふ頭を増設し蓄養水面を整備したことで、安定的な蓄養作業の取り組みや、魚種の出荷調整が可能となり、漁業経営の安定化が図られました。



#### 整備前



港外水域

#### 整備後



＜蓄養実施魚種＞  
ウニ、アワビ、カキ、ナマコ  
アサリ、コンブなど



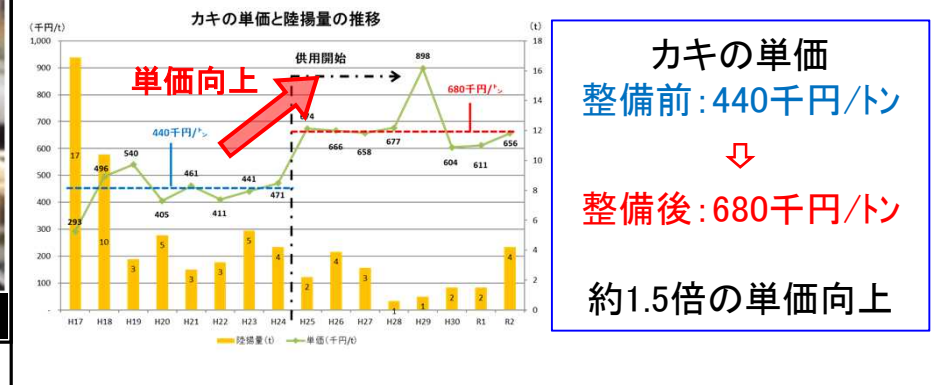
水面での蓄養利用状況



手狭で機材等の維持経費を要していた陸上蓄養施設内

#### ■漁業者の声

- ・ 陸上蓄養に比べてコストがかからず、機械トラブルもないので安定出荷に大変役立っている。
- ・ 蓄養した水産物の販売により安定した経営ができています。
- ・ 蓄養水面の浅瀬は体験観光の場としても利用されている。



蓄養魚種の安定的な出荷による単価向上



## ⑤漁業就業者の労働環境改善効果事例

岸壁整備により、屋根下では陸揚作業における雨・強風・風雪などの影響が低減されたことや、岸壁エプロンの勾配緩和による陸揚作業の軽減など、漁業活動の労働環境の改善が図られました。

### 整備前



厳冬期の陸揚作業状況

エプロンが急勾配のため  
積込時の足場が不安定で危険。



岸壁エプロンの急勾配

### 整備後



屋根下での荷捌き作業状況



エプロン勾配改善  
による作業軽減状況

陸揚げ作業の改善効果

整備前：1.5時間



整備後：1.1時間  
25分の陸揚作業短縮

### 作業軽減による労務時間短縮

#### ■漁業者の声

- ・冬期間の除雪作業がなくなり、吹雪の中での作業負担が軽減されました。
- ・エプロン勾配の緩和により、作業足場が安定しトラック積込時の負担が軽減されました。

## 2) 定性的な効果

### ①蓄養事業推進に伴う地域活性化

蓄養水面では、主にカキやウニの出荷調整が実施されており、ブランド化などが図られています。また、蓄養水面を活用した漁業体験も行っており、地域活性化に寄与しています。R2.6には「アンテナショップ寿都魚一心」がニセコにオープンし寿都産の魚介類を使ったメニューを提供し、R4.8までに来客数は約7万人となっており、寿都水産物のPRに寄与しています。



アンテナショップ寿都魚一心



ブランド水産物の例



蓄養水面でのウニ獲り体験

### ②漁港施設と連携した各種取組による地域水産業振興

漁港区域内に整備された直販・体験交流施設や「道の駅」と連携し、漁港内を水産物販売や臨海体験学習(札幌圏の高校)の場として活用するなど、漁港整備が地域水産振興に寄与しています。



すつつ浜直市場(漁協直販施設)



道の駅「みなとま〜れ」



高校生達で賑わう体験交流施設  
(H30.10)

### (3) 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された施設は、漁港管理者である北海道に管理委託等を行い、適正に漁港の維持、保全、運営その他の漁港の維持管理を行っています。

### (4) 事業実施による環境の変化

騒音、振動、水質汚濁等の環境への影響を配慮して施工が行われており、事業実施による環境の変化は生じていません。

### (5) 社会経済情勢の変化

当該漁港は、地区人口の減少に比例し漁協組合員数も減少傾向にありますが、町と漁協が進める各種助成金や住居の確保等の就業支援によって、過去10年間で19名の担い手が確保されています。また、蓄養水面にストックした漁獲物を直販施設や「道の駅」にて販売するなど漁業経営の更なる安定化に向けた活動を積極的に行っているほか、衛生管理や各種鮮度保持対策により「寿かき」、「釜揚げしらす」などの地域産漁獲物ブランド創出など、安全・安心な水産物の供給体制を推進しています。

### (6) 今後の課題

本事業により、ホッケやイカ等の沿岸漁業の流通拠点漁港として、衛生管理対策の推進及び漁業活動の環境改善が図られました。しかし、大規模地震発生時における漁港利用者の安全性や、養殖ホタテ等の国内外への衛生的な出荷体制が確保されていない状況にあります。このため、平成29年度に新たな特定漁港漁場整備事業計画を策定し、耐震・耐津波強化岸壁の整備等による防災対策、及び岸壁の拡張整備により漁港利用の更なる効率化に取り組んでいきます。

## (7) 事業の投資効果

①条件 基準年度：令和4年度 供用期間：50年

②費用便益比の算定

### 総費用(単純合計)

整備施設	数量	事業費 (億円)
北外防波堤	140.0m	15.3
北防波堤	40.0m	8.6
護岸	375.0m	27.3
-3.5m岸壁(改良)	1式	4.4
-2.5m岸壁(改良)	464.0m	4.7
その他施設		23.0
合計		83.3

### 総便益(単純合計)

便益内容	便益額 (億円)
水産物生産コストの削減効果	60.6
漁獲物付加価値化の効果 (蓄養水面)	23.6
漁獲物付加価値化の効果 (衛生管理施設)	55.6
漁業就業者の労働環境改善効果	1.2
避難・救助・災害対策効果	202.4
合計	343.4

※端数処理のため、各項目の和は必ずしも合計とはならない

### 総費用(現在価値化後)

総費用(C)	179.6億円
--------	---------

$C = \sum(\text{社会的割引率} \times \text{デフレーター} \times \text{各年費用})$

### 総便益(現在価値化後)

総便益(B)	225.4億円
--------	---------

$B = \sum(\text{社会的割引率} \times \text{各年便益})$

・社会的割引率 =  $1 / (1.04)^n$   
ここに、nは基準年(R4)からの経過年数。

### 算定結果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{225.4}{179.6} = 1.26$
----------------	----------------------------------------------------------------------------------

### ③評価結果

		前回評価 (H23期中評価)	今回評価 (R4完了後評価)	備考
事業費(億円)		80.9	83.3	維持管理費除く
整備期間		平成14年度～ 平成28年度	平成14年度～ 平成28年度	
年間便益算 定の根拠 データ	水産物生産コストの削減効果	58隻	75隻	見回り作業隻数
	漁獲物付加価値化の効果	12百万円/年	65百万円/年	蓄養水面による販売金額
	漁獲物付加価値化の効果	1,098百万円/年	1,210百万円/年	衛生管理施設での陸揚金額
	漁業就業者の労働環境改善効果	59人	54人	陸揚作業人数
	避難・救助・災害対策効果	—	7隻	避難隻数
総費用C(現在価値化後) (億円)		93.9	179.6	
総便益B(現在価値化後) (億円)		112.4	225.4	
費用便益比 (B/C)		1.20	1.26	

## 4.総合評価

本事業では、寿都島牧圏域の流通拠点として重要な役割を担っている寿都漁港において、港内静穏度を確保するための外郭施設の整備を行うとともに、水産物の衛生管理対策及び漁港利用の効率化を目的とした屋根付き岸壁等の整備を行いました。

貨幣価値化が可能な効果について、費用対効果分析を行ったところ、費用便益比は1.0を超えており、経済効果についても確認されています。

また、貨幣価値化が困難な効果についても、蓄養水面等を利用した安定出荷による漁獲物の付加価値化、漁港区域内に整備された直販・体験交流施設や「道の駅」と連携した水産業振興による地域経済への波及効果が確認されています。

本事業は、寿都漁港において漁業経営の安定及び地域経済の振興に寄与したものとなっており、想定した事業効果の発現が認められ、費用対効果分析等の投資効果も確保されていることから、本案を完了後の評価結果の案としてお諮りいたします。